

校内研究の充実2

～ 「学級づくり」心を育てる 7つの視点 ～



平成25年3月

宮城県大河原教育事務所

はじめに

東日本大震災の発生から2年が経過しようとしています。

教職員の皆様におかれましては、これまで子どもたちの心のケアを第一に考えながら、施設設備の充実や放射線への対応等、教育環境基盤の整備にご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、震災後2～3年以降に子どもたちの言動の変化が顕著になり、落ち着きのない状況が報告されています。また、昨今は、全国的にいじめによる問題も多様化していることが挙げられます。このような状況において、子どもたちの心を的確に把握するとともにその対応策が問われていると言えます。

本県では、学校教育の重点として、復興を支える人材の育成も視野に入れ、「小・中・高等学校を通じた志教育の推進」を掲げました。志教育は、人と「かかわる」、よりよい生き方を「もとめる」、社会での役割を「はたす」の3つの視点で、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に探求するように促す教育です。また、「心の教育」として「心の復興を目指した心の教育の推進」「豊かな心を育むための活動の充実」「道徳性を養う活動を展開するための家庭及び地域社会との連携」を示しています。

子どもたちの健やかな成長のためには、心の成長は不可欠です。その際に、どんな子どもに育てたいのか、どのようにして子どもの心を育てていくのか、といった具体的なイメージを持つことが求められます。

冊子発刊に当たり、昨年度は、「研究授業」における校内研究の進め方や指導案の書き方等についてまとめました。今年度は、子どもたちの心を育てるには、学級づくりにおいて何が重要なのかに焦点を当て、学校全体、組織として今一度確認し、共有しておきたい内容にいたしました。

「あいさつ」から始まり、「家庭との連携」までの7つ視点で構成し、誰でも「実行していること」「理解していること」「毎日の生活に関連のあること」を再度「子どもたちに身に付いているか見直してみる」といった思いから発信いたしました。

「心が通い合ったとき」に生まれる空間には、心地よさや、信頼感があります。子どもたちにとってその気持ちは、安心して生活する上での基盤となります。

この「校内研究の充実2～「学級づくり」心を育てる 7つの視点～」を校内研修などにおける資料としてご活用いただき、各校校内研究の充実・向上が図られるようご期待申し上げます。

平成25年3月

大河原教育事務所
所長 桂島 晃

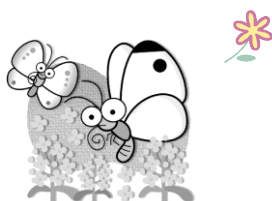
校内研究の充実 2
～「学級づくり」心を育てる 7つの視点～

もくじ

はじめに

1	スタート	***	あいさつ	<u>始めよう</u>	1
2	いつも	***	環境	<u>見てみよう</u>	2
3	キャッチ	***	音	<u>聞いてみよう</u>	3
4	どこでも	***	距離感	<u>捉えよう</u>	4
5	プラス1	***	道徳	<u>深めよう</u>	5
6	プラス2	***	特別活動	<u>育てよう</u>	7
7	プラス3	***	家庭との連携	<u>つなごう</u>	9

主な参考文献



スタート***あいさつ

始めよう



おはようございます

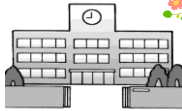
こんにちは



誰に対して話していますか。

目は相手を見ていますか。

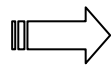
声は相手に届く大きさになっていますか。



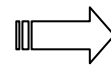
子どもの姿を見てみましょう！

幸せな気持ちになるあいさつは？・・・相手意識・笑顔・明るい声

あいさつすること



相手を認めること



心が通い合うこと



礼に始まり 礼に終わる



授業時間

- ・ 集団として空間を共有する。
- ・ ねらいに沿って学習する。
- ・ 常に教師や友達との関係が存在する。

休み時間

- ・ 個人として空間を体感する。
- ・ 個人によって自由に活動する。
- ・ 自分の意志により交流が存在する。



全員で心を合わせて礼をする・・・きりかえ・意識化・集中

礼はできていますか？

- 1 礼の意味合いを今一度子どもと確認する。(意味理解)
「なぜ礼をするのですか。」「礼をするとどんな気持ちになりますか。」
- 2 良い姿を手本として示す。(イメージ化)
「背筋を伸ばして目線は先生です。」「～さんの礼は気持ちが伝わります。」
- 3 タイミングをずらして見取りを確実にする。(実態把握)
・ 教師が最初に行い、その後子どもが行う。またその逆もある。



毎日続けていることは、重要なことでありながらも形骸化しがちです。コミュニケーションの基本である「あいさつ」は、心を込めて丁寧に行うことで生活全般に広がります。

いつも***環境

見てみよう

人が環境をつくり、環境が人を育てる ~温かな人間関係づくりを基盤として~

よい環境が、子どもたちを育てます。そして、子どもと教師や子どもたち同士の人間関係づくりは、よい授業づくり、よりよい成長を促す上で大切な基盤になります。子どもたちを取り巻く環境をもう一度見つめ直してみましょう！



子どもが学びたくなる環境をつくっていますか？

生活面から

- 教室内外の清掃活動を通して学校をきれいにし、身の回りの整理整頓を意識させている。
- 机の列が整うよう常に心を配っている。
- 靴箱、傘立て、掃除用具、ロッカーなどが日常的にきれいになっているか確認している。
- 子どもが主体的に考えた学級目標を掲げ、行動につなげられるよう意識させている。
- 様々な機会を設けて、共感的な人間関係づくり、子どもの居場所づくりに取り組んでいる。
- 美しいものを見たり優れたものに触れたりするなど、感動する場面をつくっている。

学習面から

- 辞書や本などを教室に常備している。
- 既習事項、学習の約束、基本となる話し方や聴き方などを提示し、意識付けを図っている。
- 子どもの作品には、教師の温かいコメントを添え、丁寧に掲示している。
- 安心して間違えられる、「分からない」と自然に言える学級風土をつくっている。
- 子どもが自分の考えを持てる場、交流して学び合える場を（継続して）設定している。
- 様々な立場の人々との触れ合いや、異年齢による交流活動などの学習活動を、意図的、計画的に取り入れている。



◎小さなことに気付き、自ら考え、行動する子どもに！



「教師は『環境』そのものである」ことを意識していますか？

教師の姿から

- 時間、身だしなみ、整理整頓、笑顔、あいさつについて、率先垂範を心掛けている。
- 教室の言語環境を整えるために、正しい言葉遣いを意識し、分かりやすく話している。
(例：「さん」付け、「です、ます」の語尾、根拠や理由の提示など)
- 子どもの言葉にじっくりと耳を傾け、受容的な態度で接している。(例①②)
- 子どもに寄り添い、長所や能力を伸ばせるよう、個に応じた温かな声掛けに努めている。(例②③)
- 子どもの言動を注意深く見取り、適切に賞賛や助言を行って、自己有用感を高めさせている。
例①「なるほど。」「すごくいいね。」「いつもありがとう。」
例②「いつも応援してるよ。」「どんなときでも味方だよ。」「大丈夫だよ。」
例③「さすがだね。その調子。」「すばらしい気付き（発言、行動）だね。」



日常の細やかな目配り、気配り、心配りを意識することで、子どもを取り巻く環境が変わります。継続してよりよい環境づくりに努めましょう。

キャッチ***音

聞いてみよう

聞こえてくる音は、その場に必要なお音でしょうか？

①国語や社会などの授業



・説明や発表、質問の声 ・ひそひそ話す声 ・板書の音
・板書を写す鉛筆の音 ・笑い声 ・ものが落ちる音 等

②体育や音楽などの授業



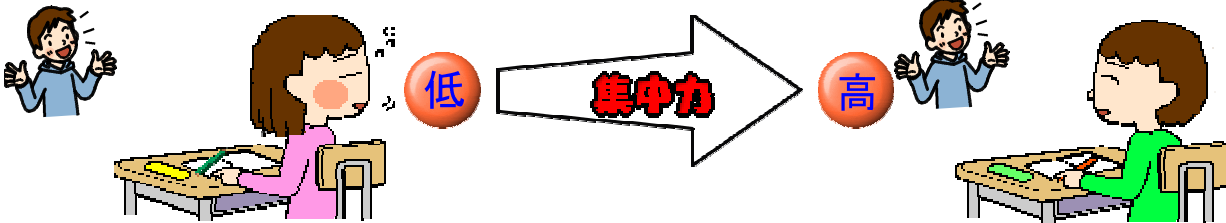
・かけ声 ・応援の声 ・ボールを打つ音
・歌声 ・楽器の音 ・笑い声 ・やじる声 等

③給食の時間や掃除の時間



・楽しく話す声 ・笑い声 ・ものがぶつかる音
・BGM ・走り回る足音 ・指示する声 等

集中して学習できる環境にしましょう。



▽ひそひそ話す声や笑い声 ▽何かを叩く音
▽ものが落ちたり転がったりする音
▽机や椅子を引きずる音▽発表を妨害する声

○板書を写す鉛筆の音 ○話し合う声
○質問や意見の発表の声 ○拍手
○驚きや賞賛の声 ○教師が説明する声

きちんと聞くことのできる子どもを育てるために！

- 姿勢や目線、手の位置を正させ、話を聞く準備をさせる。(聞く姿勢ができるまで待つようにする。)
- 後部の子どもに声が届くように話す。(小さな声でゆっくり話すのも効果的な場合がある。)
- 言葉の意味が伝わるスピードで、抑揚を付けて話す。(聞き取りやすい話し方を工夫する。)
- 生き生きとした表情で、時には身振り手振りを交えて話す。(集中力を持続させる。)
- グループ活動の時は、途中で補足説明などを加えないで済むよう準備する。(思考を妨げない。)
- 子どもの発表は復唱しない。(復唱すると友達の発表を聞かなくなる。)
- 授業中の教師の立ち位置を工夫する。(全体に聞こえるようにする。)
- 板書や図、資料と関連させて話す。(視覚的に訴えるようにする。)

《育てたい3つの心》

- ①「共感する心」
- ②「認め合う心」
- ③「共に高め合う心」

必要な音を子どもに届けるために、安心して学習できる集団づくりを心掛け、「聞く」ことへの意識の向上を図りましょう。

どこでも***距離感

捉えよう

～・・・日々の関わりの中で・・・～

◇ 子どもの心に寄り添う

子どもの心は目に見えにくく、一様ではないため、その場その場で、子どもへの関わり方に迷いが生まれることも多いはず。しかし子どもからすれば、気が付いたときに「あ、いてくれたんだな」と自然に思えることや、「先生はいろんなことをやらせてくれる」「少数の意見にも耳を傾けてくれる」など、普段から「安心感」を与えてくれる先生に心を寄せるものです。教師と子どもの心と心が通い合う関係づくりのために、集団全体を見渡すバランス感や、適度な距離感を大切にしましょう。

近付き過ぎて・・・



距離を置き過ぎて・・・



馴れ合い、もたれ合い、過干渉
・・・無秩序、嫌悪感へ
*寄り添おうとする気持ちが裏目に・・・

ただ観察だけを繰り返している日々、
個や集団への理解不足、指導なし
・・・無秩序、不信感へ
*遠慮していた気持ちが逆効果に・・・



◇ 全体を見渡す

子どもたちは日頃どう関わり合っているのか、一人一人の「安心感」はどのくらい保たれているのか、目に見えない子どもの心（感覚・意識等）を知るためには、子どもたちの素顔（表情・行動等）こそが大きな手がかりとなります。そこで例えば、自分を律しているか、他者を思いやっているかといった二つの側面から子どもを観察する視点を設けるなどして、集団の実態をしっかりと見渡すことのできる感覚を磨いておきたいものです。

◇ 社会的自立の場として（「社会技能（Social Skill）」の発揮）

集団の一員として他者と協調・協同し、よりよく生きようとする心を育もうとするとき、次のような力はどのくらい身に付いているでしょうか。



この頃、自分の周り
にいる立場や考え
方の違う人にも
気を付けて話が
できるように
なってきたかも・・・

私あの子ちょっと苦手
だなあ。だけど、顔に出
たらきっと気付くだろう
な～、落ち込むだろうな～



ん？〇〇くん表情
いいぞ！自分の考え、
うまく人に伝えられ
るようになってきた
のかな・・・



- ①その場の雰囲気
- ②自分の言動に対する相手の受け止め方を想像できる
- ③自分の判断や考えを上手に伝えられる

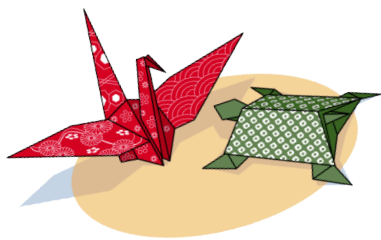
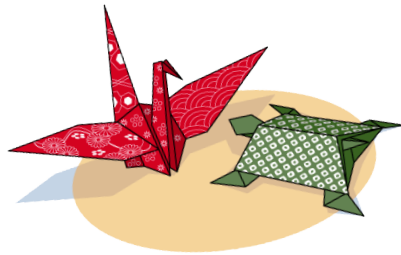
捉える！

教師

◇育てたい心へつなぐために・・・

気付く・認める・励ます

一人一人に関わりながらも集団全体を見渡すことによって、いつでもどこでも、子どもの心に気付き、理解するための適度な距離が自然に保たれるよう心掛けましょう。



プラス1***道徳

深めよう

道徳教育は教育活動全体を通じて！

子どもの姿

◇授業の中で

- ・こつこつと家庭学習をやっている。
- ・素晴らしい音楽や文学作品に感動した。
- ・外国語活動が得意だ。

◇学校行事等様々な場面で

- ・一生懸命頑張ったのに負けてしまった。
- ・チームがまとまらなかった。
- ・失敗した友達を慰めていた。
- ・負けても、あきらめずやり遂げた。

◇日常生活の中で

- ・いつもよい挨拶をしている子がいる。
- ・悪口を言われてけんかをした。
- ・いつも真面目に掃除をしている。



トラブルなどは
その都度
タイミング良く
指導します。



道徳的価値

- 自分に関すること
節度 節制 自立 勤勉・努力
希望 勇気 責任……
- 他人との関わり
礼儀 思いやり 親切 友情
助け合い 寛容 尊敬……
- 自然や崇高なものとの
関わり
生命尊重 自然愛……
- 集団や社会との関わり
公德心 勤労 家族愛……

☆教師の態度や行動による感化も、道徳指導の大きな要素です。

- ・日常生活のひとこまひとこまの中にも、道徳的価値は現れます。
- ・社会生活のきまりや基本的モラルなど、必要なことはその都度指導しなければなりません。

道徳の時間は何をする時間なの？

道徳は心を育てる時間です。各教育活動で行う道徳教育を補充、深化、統合する時間です。

《補充》 教科等の指導や日常の生活の中の断片的な価値体験を補います。

《深化》 何気なく体験した価値を、じっくり考え深めます。

《統合》 学習した個々の価値を全体的なつながりの中で人間の生き方の問題として捉えます。

道徳の時間

これまでの授業を振り返ってみましょう

□児童生徒の意識がねらいとする道徳的価値に向いていますか。

(興味・関心を引き付けようとして道徳的価値とずれてしまうことがあります。)

□望ましい感じ方考え方の追求に終始していませんか。

(自分の経験に基づいて考えられるようにさせたいものです。)

□児童生徒の発言を適切に取り上げ、話し合いを充実させていますか。

(活発に話し合いをさせようと不用意に討論させると価値から離れることがあります。)

□児童生徒に行為を押し付けたり、決意表明をさせたりしたまともになっていませんか。

(道徳の時間の特質からは外れています。)



道徳の授業をしよう！

日常の学校生活・家庭生活
生活の中で体験する価値
学校生活の中の道徳教育
教科等で指導する内容（指導計画別葉）
道徳の時間の指導計画



授業の中心価値



学習指導過程

子どもの実態

- ・道徳性の種を拾う。
- ・特にこれから育てたい良い面に着目する。

（課題ばかりに目が行きがちです。）

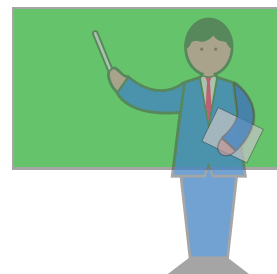


学校の指導計画に基づいて、授業で取り上げる中心価値を決めます。
◎道徳性を養う糧となる様々な出来事や体験を思い出すことができるような普段の学級経営が大切です。
◎様々な出来事を見逃さないで、書き留めておきましょう。

導入

主題に対する問題意識を持たせる段階

- 児童生徒が体験している身近な出来事を取り上げる。
- 興味・関心の高い内容の資料を使う。
- 資料提示を工夫し主題を分かりやすく提示する。



展開

主題のねらいを達成するため、その根底になる道徳的価値について自覚を深める段階

- 自分自身の生活経験等を想起して話し合いを行う。
- ねらいとする道徳的価値に対する感じ方、考え方の多様性に気付くような発問構成をする。
- 板書によって多様な考えを整理できるよう工夫する。
- 一人一人の意見を取り上げる工夫をする。
(特にあまり発言しない子どもや、少数意見を丁寧に扱う工夫。)

終末

道徳的価値についての思いや考えをまとめ、今後の発展につなぐ段階

- 憧れの存在を示し、実践への動機付けを図る。
- 本時の学習について分かりやすく整理し、取り上げた価値について、自分との関わりで理解できるようにする。

「礼儀」「公德心」「規則遵守」などの価値を授業で取り上げて、挨拶について指導をしたのに、学級の子どもたちは挨拶ができないというような状況が生まれてしまうことがあります。挨拶指導は普段の生活、授業の始めや終わり、その他学校生活の各場面で行われなければなりません。また家庭との連携も必要です。その上で道徳の時間では、挨拶の意味や挨拶のよさを改めてより深く考え、その後の実践に向かうような心を育てるようにします。

道徳は行為を教える時間ではありません。心を育てる時間です。子どもたちが心を開いて本音を言い合える、人間関係をつくりましょう。

プラス2***特別活動

育てよう

特別活動は道徳的実践の指導の場
多様な他者と折り合い、自己を生かすことのできる子どもを育てましょう。

望ましい集団活動をするのが大切です。

話し合い活動においては、折り合いをつけながら集団決定し、それをみんなで実践する取組

学級内の組織や仕事の分担などをみんなで見だし、一人一人が役割を分担し、責任を果たす取組

男女の協力、互いのよさの発見、違いを認め合うなどの望ましい人間関係を築く態度を形成するための取組

活動の目標をみんなでつくり、目標達成するための方法や手段を考え、話し合い、達成に向かってみんなで努力する取組

行事等の振り返りをさせることで自己評価能力を身に付けさせ、自己の生き方について考えを深める取組

特別活動は、一歩間違えると
いじめにつながる場合もあります。
例えば、運動会で一番になる
ことだけを評価すると、足の
遅い子どもが評価されないこと
も起きてしまいます。いわゆる、
特別活動は一番になるようなこと
を目標にしてはいけません。
あくまで、人間関係づくりが目
標なのです。



つまらなさそうに話し合い活動をしている子どもはいませんか。
特別活動はみんなで決めてみんなで取り組むのが大切です。

◎あなたの学級の話し合い活動をチェックしてみましょう。

①提案理由やめあては、合意を見いだす視点になっていますか。

合意を見いだすためには、複数の視点を持つことがポイントです。レクリエーションをするときのめあてが、「仲良くなる。」よりは、「男女が仲良くなる。」などとすると、根拠のある意見が出て、合意につないでいくことができます。

②話し合いをする上で決まっていることが吟味されていますか。

学級の旗を決めるとき、旗の大きさも決まっていなのに話し合いがなされれば、いくら時間があっても足りません。話し合いの前に決めるべきことは決めさせ、話し合いのシミュレーションをするなどして、時間内に終わらせるのが大切です。

③話す声はみんなに聞こえていましたか。周りの子どもはその発言を良く聞いていましたか。

ルールを守った話し合い活動がなされていなければ、話し合い活動にはなりません。

④意見と意見をつないだ話し合いがされていますか。

「私は」を主語にしていくら話をしても合意には至りません。それぞれの意見をつないで「私たちは」で話せるようにすることです。意見を多く言うだけの学級会ではなく、みんなで納得し収束させる話し合い活動にしてください。

⑤板書は分かりやすくなっていますか。

みんなが前を向いて話し合い、板書が終わった時に、何を収束させたのか分かるような板書を工夫してください。

⑥司会は自分の判断で進行しようとしていますか。

教師が耳元で話していませんか。子どもたちが自分でやるように待つことも必要です。

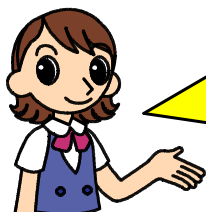
⑦待つ姿勢がありますか。

教師が待てないと子どもたちの力が身に付きません。

⑧子どもたちに満足感が残り、実践意欲が湧いていますか。

子どもたちは、自分たちで決めたという意識がありますか。教師が決めたという学級会ではいけません。

子どもたちの目標を「思いやりを持った運動会にしよう。」とすれば、思いやりなどの道徳的価値を意識させて取り組むことができます。活動の最後には、思いやりが大事な、協力するって大事なと子どもたち自身に振り返りをさせるとより深まります。



学級活動(2)において、今日学んだことや感想だけを書かせていませんか。しかし、特別活動で大切なことは、「やることを決める」、「自分の問題を自分で決める」ことです。道徳との違いを明確にしておくことが大切です。

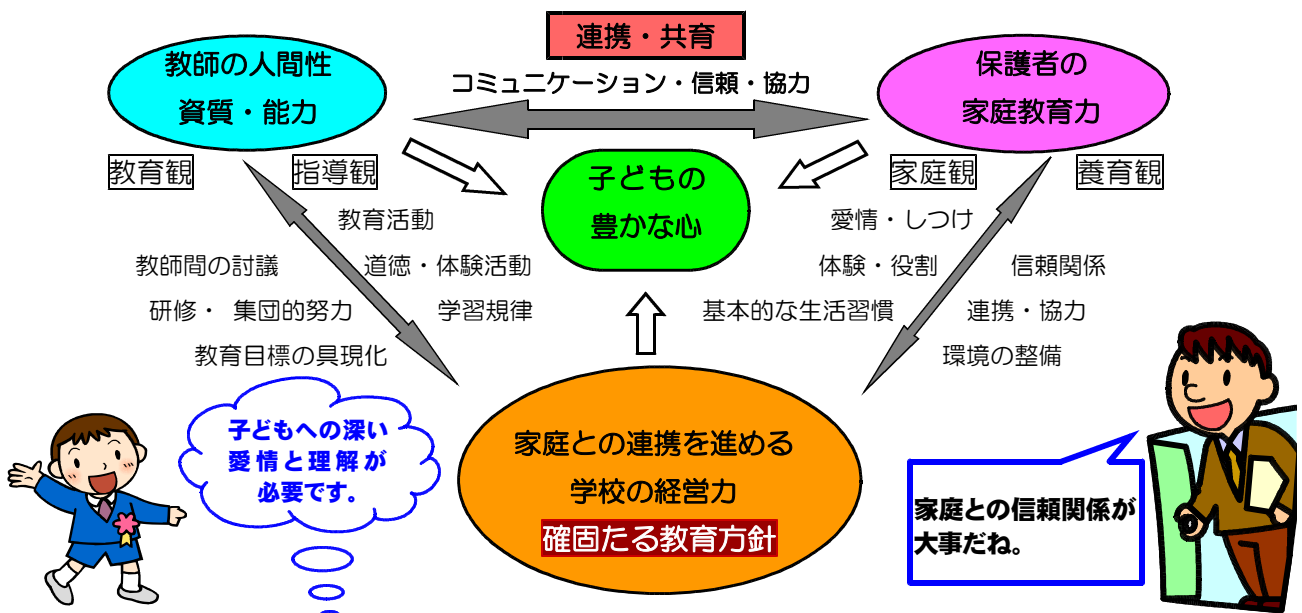
特別活動は、子ども自身がゴールを見定め、ルールを敷いてそこを走りきることです。そのためには、望ましい集団活動を小中学校で継続して実践しましょう。

プラス3***家庭との連携

つなごう

◇・・・明日の社会を支えていく人づくり・・・◇

子どもの望ましい成長にとって、家庭と学校での教育、そしてその両者の協力と連携は極めて大切です。家庭と学校の連携を図るために、保護者と教師が子どもの教育について交流する場を増やし、互いにコミュニケーションを図り、信頼関係を築いていきましょう。



◇学校と家庭の緊密な連携の中で、豊かな心を育てていきましょう！

- ・「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」「行ってきます」「ただいま」「おやすみなさい」の言える子どもに育てる。
- ・子どもの話によく耳を傾け、子どもの心をしっかり理解してあげる。
- ・子どもの良さを伸ばすように、良いことは常に誉め、悪いことはしっかり注意する。
- ・積極的に「読書の時間」を学校や家庭で設け、豊かな人間性、正義感や公正さを重んじる心、他人を思いやる心を育てる。

◇保護者との協力により、子どもを守り育てる環境をつくりましょう！

- ・あいさつ運動の活動では、保護者にも声を掛けて共に参加する。
- ・授業公開日を設け、授業、給食の時間、保健室、職員室等を公開する。
- ・参観日には、道徳教育の要である道徳の授業を実践する。
- ・スポーツ大会、保護者研修会等を保護者と共に企画運営する。

子どもの豊かな心は、「学校」と「家庭」の両輪で育むものです。互いの信頼関係をしっかり築きながら、連携を図って子どもの望ましい成長を促していくことが大切です。

参考文献



- 小学校学習指導要領解説 文部科学省 2008.8
中学校学習指導要領解説 文部科学省 2008.9
言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】 文部科学省 2011.10
言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】 文部科学省 2011.5
評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校）国立教育政策研究所 2011.11
評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）国立教育政策研究所 2011.7
初等教育資料 文部科学省 2012.1
生徒指導リーフ シリーズ 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター2012.9
「はやね，はやおき，あさごはん」推奨運動の展開に係る基本方針 2005.10
宮城県教育振興計画 宮城県・宮城県教育委員会 2010.3
平成 22 年度 全国学力・学習状況調査 宮城県検証改善委員会報告書 宮城県教育委員会 2011.1
宮城県学校改善支援プラン 宮城県教育委員会 2011.3
平成 24 年度学校教育の方針と重点 宮城県教育委員会 2012.3
VIEW21 [小学版] ベネッセ教育研究開発センター 2011.2
AKITA STANDARD あきたのそこちから 秋田県総合教育センター 2011.2
学ぶ意欲をはぐくむー「学習に関するアンケート」を活用してー 栃木県総合教育センター 2011.3
若い先生のための『学級経営講座』16 埼玉県教育局東部教育事務所 2012.7
児童心理 金子書房 2010.5
校内研究の充実 ～ 研究授業 7つの視点 ～ 宮城県大河原教育事務所 2012.3



